



花はどうして春、暖かくなると咲くの

冬の寒さが、春先に花を咲かせる条件

春先に咲く草花は、チューリップ、スイセン、クロッカスなど、秋に球根を植えられたものが多いですね。木の花では、ウメやサクラです。これらの木の花は、秋、葉が落ちて落ちるころ、花芽が準備されています。そして、冬の寒さにさらされてから、暖かい気温が続くと、花芽がふくらんで、花が咲きます。球根も、地面の下で、冬の寒さにあわないと、うまく花が咲きません。これらの花は、寒さにあうことが、花が咲くための条件になっています。そのため、サクラのつぼみを冷蔵庫にしばらく入れて、暖かい室内に出すと、春がくる前に、サクラを咲かせることができます。

昼の時間の長さが、花を咲かせる合図

たいていの植物は、花芽を作り始めるのに、昼間の時間（明るい時間）と夜の時間（暗い時間）の長さの変化を合図にしています。春から夏にかけて、だんだん日が長くなっていくころ咲く花は、ほとんどが、昼間の時間が、ある一定の時間より長くなると、花をつけます（長日性植物という）。逆に、夏から秋にかけて咲く花は、昼間の時間が短くなると花をつける短日性植物が多いのです。

長日性植物には、アブラナ、アヤメ、ダイコン、ムクゲ、ペチュニアなどがあります。ムクゲは、明るさが12時間以上ある日が続くと、花芽ができ、ペチュニアは、14時間以上明るい状態の日が続くと、花芽ができます。

短日性植物のアサガオやキクは、明るい時間が10時間以下になると花芽ができ、コスモスは、明るい時間が12時間以下になると花芽ができます。（監修・矢野 亮）

